

あした 未来へつなぐ

【安全・安定輸送への取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里紗

お客さまの安全が最優先！ 冬期に起こり得るあらゆる事態を見据え、 安全・安定輸送の確保を目指す

①

数年、いわゆる異常気象に見舞われ、それによる気象災害が世界的な問題になっていきます。前年度は、北海道でも降雪量の少ない函館方面で記録的な大雪を観測したほか、岩見沢市でも平年の約二倍にあたる二桁を超える積雪を記録するなど、これまでにない気象となりました。悪天候

による輸送障害の対応に追われたこともあり、公共交通機関としての使命を担うJR北海道では、今冬の安全・安定輸送の確保に総力を挙げて取り組む方針を打ち出しています。

その一つが、駅間の側雪や駅構内の堆積雪を計画的に排出する「確実な予防除雪」です。排雪モーターカー

ポートする各種設備により、安定輸送の確保を目指します。

一方、局所的な大雪に見舞われたとき



ポイント融雪ピット。今冬期は岩見沢駅構内の2ポイントに新設。

は、乗務員、駅社員、保線社員などとの緊密な連携により、速やかに降雪情報を収集し、さらに駅に設置した降雪モニターカメラで降雪状況を把握するなどして、「悪天候における運行計画」を立て、最善策を展開。線路状況の悪化が予想される

ときや除雪のめどが立たない場合、お客さまの安全を考慮し、特に長距離運行の列車は始発駅からの運休を計画します。各地の降雪状況をいち早くつかむため、今年度は千歳駅、苫小牧駅、追分駅、小樽駅など、全十四カ所に降雪モニターカメラを新設しました。

「悪天候における運行計画」を立て、最善策を展開。線路状況の悪化が予想されるときや除雪のめどが立たない場合、お客さまの安全を考慮し、特に長距離運行の列車は始発駅からの運休を計画します。各地の降雪状況をいち早くつかむため、今年度は千歳駅、苫小牧駅、追分駅、小樽駅など、全十四カ所に降雪モニターカメラを新設しました。

しかし、どんなに有効と

思われる対策を講じて、突然の天候悪化を防ぐことはできません。列車の運行に支障が生じ、やむを得ず駅間に停車した場合、お客さまを長時間待たせることのないよう「お客さまの救護を最優先」とした手配を実施することも重要な課題。お客さま案内を行う者、救護バス、除雪要員など、それぞれが迅速に対応することで、事態の収拾に努めていきます。



リアルタイムで降雪状況がわかる降雪モニターカメラ。



北海道の冬は、線路上の雪を遠くへ飛ばす「排雪モーターカーロータリー」が大活躍！今冬期は岩見沢、幌向、七飯に増配備。